

小坂井 実

議員

清流クラブ

東海北陸自動車道の南進計画は立ち消えになってしまったのか

問

(1) 東海北陸自動車道南進について、現在一宮市まで完成しているが、そこから伊勢湾岸自動車道、名古屋港までの南進はいつの間にか立ち消えてしまった。

私の記憶では、十数年前には路線もほぼ決まり、すぐに進捗するものと誰もが期待した高速道路だったはずだが、この道路計画について尋ねる。

(2) この東海北陸自動車道の南進は、本市としても非常に重要な道路であると認識していたら、どうしてかと思うが、市の見解を尋ねる。

答 市長

立ち消えになったという認識はない

(1) この道路計画は、平成10年に東海北陸自動車道の南進として、一宮ジャンクションから本市の伊勢湾岸自動車道に至る概略延長30キロを一宮西港道路として計画路線に指定されている。県に確認をしたが、現在、一宮ジャンクション部において、尾張西部から東海北陸自動車道へのアクセスを強化するため、インターチェンジの整備を進めているとのこと。将来の南進事業に支障のない形態で計画の実現に向けての呼び水になればということであった。この整備と並行して、県においては、一宮西港道路の調査を実施しているとのことであった。いろいろな

高規格道路、名古屋環状2号線と東海環状自動車道の西回り区間の進捗状況を見ながら、一宮西港道路の実現に向け、引き続き調査研究を進めていくということであった。

よって、本市としては、この計画道路は立ち消えとなっていないとの認識はない。

この道路に対する期成同盟会が県、名古屋港管理組合、海部地区4市2町1村、一宮市、稲沢市で結成されており、この計画を進めるよう、国に要望していることが必要と考えている。

(2) 東海北陸自動車道と一体となって、太平洋側と岐阜県を経て日本海側へと結ぶ高速ネットワークづくりをすることは、私たちの地域にとっても非常に重要であり、名古屋港や尾張西部地域の発展に大きく貢献すると考える。

中部国際空港へのアクセス道路としても期待される。また、西尾張中央道の交通渋滞の緩和、大型車の市

街地への流入の減少、そして南海トラフ巨大地震における津波被害に対する産業道路としての利用価値は非常に大きいものがあると思っている。

希望者だけでも各家庭に標高表示できないか？

問

(1) 同報無線の支柱に取りつけられた鍵つきの箱の中心について、どのような機能が備わっているか。

(2) 各家庭が自宅の水位が海抜何メートルであるかを認識することが大事ではないか。

希望者だけでも自宅に標高表示をできないか。

自助の範囲で確認をお願いしたい

答 防災安全課長

(1) 同報無線の支柱に取りつけられた箱は、通信装置や拡声装置が収納されている。機能としては、一度に不特定多数の住民に対して、同じ内容の情報を短時間に

提供できる親局側からの音声信号を拡声する機能、サイレンの吹鳴機能、全国瞬時警報システム（Jアラート）により弾道ミサイル情報、津波情報、緊急地震速報など、対処に時間的余裕のない事態に関する情報を、同報無線を自動起動して住民まで瞬時に伝達する機能などがある。

また、付帯機能として、屋外拡声子局単独での放送、親局と子局間の連絡通信機能や子局監視機能、アンサーバック機能が付帯されている。

(2) 同報無線の柱や避難所などに標高表示をしており、そこから自宅の標高の確認は可能かと思う。一度そちらで確認していただきたい。

また、携帯電話のGPSでも手軽に標高が確認できるので、ぜひとも防災に対する自助の範囲で確認をお願いしたい。